

感染症情報 8月28日～9月3日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①RSウイルス感染症	782例(堺市	64例)
②感染性胃腸炎	745例(堺市	31例)
③手足口病	369例(堺市	16例)
④溶連菌感染症	249例(堺市	14例)
⑤ヘルパンギーナ	182例(堺市	9例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	53例(堺市	0例)
---------	--------	-----

が報告された。

感染症報告数は前週から12.1%増の2,680件であった。いよいよRSウイルス感染症が第1位となった。以下、感染性胃腸炎、手足口病、溶連菌感染症、ヘルパンギーナの順であった。

RSウイルス感染症は府下で前週比46%増、堺市で前週比36%増であった。大阪府全ブロックで増加している。定点当たりで見ると、前週が2.7→今回3.9になった。2位の感染性胃腸炎は府下で前週比14%増、堺市で7%増であった。手足口病は府下で前週比16%減、堺市で41%減であった。溶連菌感染症は府下で前週とほぼ同数、堺市でも前週15例→今回14例であった。ヘルパンギーナも府下で前週とほぼ同数、堺市では前週18例→今回9例となった。

インフルエンザは府下では前週34例→今回53例に増加している。地区別では守口市・寝屋川市・門真市・枚方市などの北河内地区が21例で一番多い。堺市では前週2例あったが、今回0であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。